

第7回日本がんサポーターティブケア学会学術集会

科学する支持医療を目指して
～病気を診ずして病人を診よ～



ランチョンセミナー8

科学に基づく抗がん剤脱毛患者の サポーターティブケア

開催日時 2022年6月19日(日) 12:20～13:20

会場 海峡メッセ下関 第4会場
(8F 801 大会議室)

座長

大分大学医学部
消化器・小児外科学講座 教授

猪股 雅史 先生

演題・演者

抗がん剤脱毛を予防する
一産学連携抗がん剤脱毛予防プロジェクト

大分大学医学部
消化器・小児外科学講座
高度救命救急センター 助教

河野 洋平 先生

■参加登録について

本セミナーはハイブリッド方式（現地ライブ配信）にて開催いたします。
当日、密を避ける観点から会場での参加登録はございません。
必ず事前に学会 HP からオンライン参加登録をお願いいたします。
<https://www.jascc2022.org/registration.html>

MEMO



演 者

大分大学医学部
消化器・小児外科学講座
高度救命救急センター 助教

河野 洋平 先生

▶ 抗がん剤脱毛を予防する —産学連携抗がん剤脱毛予防プロジェクト—

【はじめに】

がん治療によって生じる外見変化のなかでも脱毛は、乳癌をはじめとした様々な領域の悪性疾患に対する化学療法において高頻度に発症する。多くは化学療法終了後3～6カ月で回復が始まるが、永久的な脱毛、不完全な回復、毛髪の質や色の变化なども起こる非常にストレスの大きい有害事象である。我々は産学連携研究プロジェクトとして、患者QOL向上を目的とする抗がん剤脱毛対策に取り組んでおり、プロジェクト内容について紹介する。

【これまでの取り組み】

1. 抗がん剤脱毛のメカニズムを解明する基礎研究

シクロフォスファミドを用いた抗がん剤誘発脱毛動物モデルの毛包周囲環境の変化をin vivo イメージング技術を用いて詳細に検討し、毛包周囲の血管内皮細胞に起こるアポトーシスと血管透過性の亢進が病態の一要素であることを明らかにした。

2. 抗酸化物質αリポ酸誘導体を用いた脱毛予防治療の開発

空気中でも安定した強力な抗酸化力を有し、外用剤として適したαリポ酸誘導体に注目し、新規治療法の開発を行ってきた。αリポ酸誘導体の抗がん剤脱毛モデルにおける脱毛抑制効果を確認し、病理組織学的に皮膚の酸化ストレスと炎症が軽減されることを明らかにした。

3. 抗がん剤脱毛に対するαリポ酸誘導体の効果を検討する臨床研究

術後補助化学療法施行乳癌患者100名を対象とした多施設共同研究にてαリポ酸誘導体の効果を検討した。1%αリポ酸誘導体含有ローションの頭皮塗布は脱毛からの回復を促進する効果を示した。

4. 産学連携による製品開発

毛髪関連のリーディングカンパニーとの産学連携プロジェクトを経て、抗がん剤脱毛研究に基づくαリポ酸誘導体含有頭皮用ローションの製品化に至った。

【今後の展望】

αリポ酸誘導体の消化器がん患者への効果や、乳がん患者で使用される頭皮冷却法との併用効果の検討など研究を進めており、今後のさらなる研究進展による脱毛機序の解明と完全な予防法の確立が期待される。

略 歴 等

【略歴】

2001年3月 大分医科大学医学部卒業
2001年5月 大分医科大学外科第一(研修医)
2007年5月 大分大学医学部 消化器・小児外科 医員
2012年3月 大分大学医学部 博士課程 修了
2016年4月 豊後大野市民病院 外科部長
2017年4月 大分大学医学部 消化器・小児外科
高度救命救急センター 助教

2018年1月 米国Weill Cornell Medicine Visiting Fellow

2019年8月 大分大学医学部 消化器・小児外科
高度救命救急センター 助教
消化器外科、消化器癌診療・研究に従事

【資格】

医学博士、外科学会専門医・指導医、消化器外科学会専門医・指導医、がん治療認定医

Aderans

